

第4回新湊みなとまちづくり戦略会議議事録

日時：平成18年8月31日（木）

午後2時～午後4時

場所：伏木富山港湾事務所新湊事務所

みなとふれあい館

事務局：アドバイザーの紹介、代理出席者の紹介

事務局：続きまして、部長がごあいさつ申し上げます。

部長：委員の皆様、アドバイザーの方々におかれましては、それぞれに大変お忙しい中、今日の会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。今日は趣向を変えてといいましょうか、海、そして港が感じられるこの会場を選ばせていただきました。こういった環境の中で委員の皆様には、いろいろ発想を豊かにしていただき、ご意見を賜ればと思っております。伏木富山港湾事務所様には、ご配慮いただき誠にありがとうございます。

さて、前回の会議でご依頼申し上げましたとおり、前回の会議を踏まえて、委員の皆様方には、ご意見ご提案を郵送でお願いしておりましたところ、多数ご意見をいただきましてありがとうございます。今日は、それぞれ出されたご意見を踏まえて、大変漠然とした内容もあってお答えにくい部分もあったかと思いますが、この会議の中でいろいろ意見交換していただく中で、具体的な提案、もっと明解にさせていただくことを期待しております。

我々といたしましても大変難しい課題だと思っておりますが、住みよいまちづくりを進めていくためには、こういった取組をより具体的に一つ一つ成し遂げていくことが大事だろうと思えます。委員各位のますますのご協力とご支援をお願いいたします。

事務局：それでは、さっそく協議に移りたいと思えます。委員長よろしくお願ひします。

委員長：みなさんこんにちは。座ってさせていただきます。今から2時間程度なんです、ご協力のほどよろしくお願ひします。そろそろ、新湊みなとまちづくり戦略会議の設置要綱にも書いてありますように、核心に触れていく必要があるように思えます。それで、前回とはがらっと変えて、事前に皆さんか

らのご意見をいただきました。間接的にも口頭でいろいろとご意見をここでおっしゃられたものも加味しまして、私と事務局のほうで多少整理をさせていただきました。ということで、今日は、みなとまちづくりをとにかく進めていく、いろいろな観点はあるわけですが、とりあえず皆さんの意見をまとめた、こちら側からの提案があります。それに基づいて意見交換をして、一步でも前に進めることができればと思います。

この戦略会議をどのように位置付けるかということは、設置要綱にも書いてありますが、一応こういうふうに把握しております。みなとまちづくりに行政の窓口として「みなとまちづくり班」を設けているのは、そんなに多くないのではないかと思います。この辺りでは初めてではないでしょうか。ほかはどのようになっているかということ、市民の思いで個々の活動をして、それをぜひ行政に取り上げてもらいたい、あるいは自分たちでそういう運動としてやっているわけですが、この場合は、行政に人を配置して、しかも、その方策としてのビジョンを文書化してあります。ということは、かなり先に行っているんじゃないかと私は思うんですね。そういう意味でここがうまくいけば、高岡の伏木あるいは富山の岩瀬のまちづくりのほうにも、相当な影響といいましょうか参考になるものになるだろうし、あるいは、日本海全体のみなとまちの創り方にも影響を与えていくというように思っています。ということで、ここで出てきた一つの物はですね、即行政のほうで大きな方針と合致するようなものは進められるだろうと思います。しかし、なにぶん財政的に進められないものがかかなり多いと思います。そうすると、やはりここにおられる委員の方がそれぞれの住民組織、会社組織、学校という組織、いろいろな関わりの中で、同時にどンドン進めていける部分があると思います。あるいは、人に声をかけて「こういう形でやる人はいないのか。」ということで、エンジンをかけていく部分もあるかと思いますが。これがまさに戦略という形で、いろいろ案を出しながら、このみなとまちづくりの一步を踏み出して行きたい、そういうように思っています。

それで、常に念頭に置いておきたいのは、まちづくり方策での印刷物がありますので、理念はいつもそれに基づいて話し合い、行動につながっていけばいいのかなと思っております。非常に簡単にいいますと、海と港と船ですね、この近くの地域がこれを生かしてロマンあふれるまちにしていこうということです。これが一つです。もう一つは、港という近代資産を相当なお金を使って、現在の状態になっているわけですから、これはやはり環日本海の国際交流の窓口なんですね。この環日本海というものと海と港、これらがキーワードでこれを活かしたまちづくり、それがポイントになっております。そんな観点から皆

さんから出た意見のいろいろなものを、今日はとりあえず、まとめてきたもので進めたいと、まずもって申し上げたいと思います。ただ、その前に宿題で前回の会議で出た意見で答えられなかったものもありますから、まず最初に新漁村コミュニティ基盤整備事業の件について、部長からご説明をお願いします。

部長：今ほど委員長からありました、前回ご質問のあった新漁村コミュニティ基盤整備事業、これは平成16年3月にまとまっております。施設整備をするに当たって、いろいろ候補地を挙げております。例えば、現在の新湊漁協があります漁港関連用地10ヘクタールですが、その場所がどうだとか、あるいは海王丸パークの空き地ではどうだとか、それから、旧漁港、西漁港として位置付けている場所でどうかとか、何点か候補地を出して、そこでの立地の可能性について長所短所をそれぞれ挙げており、報告書ではそこまで示されています。そういったものは、冊子として出来ているんですが、関係する業界の意見が、なかなかすり合わせがならなかったということから、前回も少し漠然と言いましたが、頓挫しておる状況です。

この固められた調査報告が全く伸展しないのか、あるいは一步前へ出るのか、これは今の段階では私どもとしてはなかなか予想がしがたいのですが、可能性としてはあるのかなという思いでおります。ですから、決して捨てきってはいないつもりでおります。そういう状況であるということで、なかなか答弁しにくい内容ではあるんですが、そういうことで報告に代えさせていただきます。

委員長：ありがとうございました。そういうことで、また新しい情報がありましたら、随時出していただくということで。それでは早速中身に入りたいと思うのですが、皆さんからいただいたものを、今日意見交換をしたいものとして、3つぐらいにまとめてあります。1つは海王町の問題、それからもう一つは海竜町での具体的な問題、それから内川の問題についての考え方というものになります。とりあえず、今日はその辺りに絞って意見交換できたらと思います。最初は海王町について、いろいろな意見が出ました。それをまとめてみると、物販施設、あるいはレストラン、オープンカフェ、体験型宿泊施設、温浴施設、こういったものがあればいいな、これをどういった具合にもっていったらいいのかという問題であります。皆さんから出たものをまとめるとですね、これを一体的になるような形で整備をしていくのでどうだろうかということにまとまりそうなんですけども、この辺りを事務局の方から説明をお願いします。

事務局：それでは、皆様のお手元にある資料1をご覧ください。海王町の部

分からご説明したいと思えます。委員の皆様には7月中にどういった意見がありますかということでご依頼を申し上げまして、7月26日の回答期限ということでご回答をいただきました。漠然とした中でもご回答いただき、誠にありがとうございました。どういった質問をしたかといいますと、第1段階の中で先導的な事業に位置付けられている事業が10項目ほどございます。それプラス比較的早急に対応が可能な事業として4項目ほどございまして、全部で14項目について実現するにはどういった手法がありますかということで、ご質問を差し上げたところでございます。先導的事业につきましても、皆様お持ちの冊子の22ページに書いてございますので、ご覧ください。

はじめに海王町ですが、海王町では集客機能が先導的事业と位置付けられておりまして、物販施設、レストラン、オープンカフェ、体験型宿泊施設、温浴施設、この5つの施設について、ご意見をお伺いしました。まず、物販施設についてですが、1つ目の意見が、水産物商業連合協同組合や水産加工業協同組合、そして新湊ふるさと物産推進協議会、こちらの団体は新湊商工会議所が中心となって新湊地区の物産を取り扱う事業者さんが一緒になって、県内外へ特産品を売り込んでいらっしゃる団体なんです、そちらのほうに相談してはどうかというご意見、そして、新湊ブランドの発信とトップセールス、やはりここにしかないという新湊をどんどん発信していくことが大事ではないかというご意見、3つ目がチャレンジショップ、このチャレンジショップについては、多分箱物が既にあって、その中に入って事業をしていくという形で考えていらっしゃるんだと思うのですが、新しく事業をする人たちへチャレンジショップのような形でPRしてはどうかという意見がありました。それで、レストラン、オープンカフェ、体験型宿泊施設、温浴施設につきましては、一貫して一つの意見がございまして、その意見はすべてを一体化したもので考えるべきではないかというものです。また、チャレンジショップについても、物販施設からオープンカフェまで同じような意見をいただいております。レストランについては、一つの意見としてファミリーレストランを経営する企業に声かけをしてみればどうかといったご意見がございました。また、オープンカフェにつきましては、市内の喫茶組合という団体があるので、そちらに話をしてみてもどうかという意見がございました。体験型宿泊施設につきましては、新湊漁業協同組合や市内の民宿業者、市内といいますが新湊地区の民宿業者かと思いますが、そういったところと協議が必要ではないか、新湊漁業協同組合といいますと、先ほど部長から説明がありました新漁村コミュニティ基盤整備事業の関係で協議すべきという意見かと思えます。また、体験型宿泊施設につきましては、海洋高校や商船高専がお持ちの練習船を活用できないかというご意見もございま

した。最後に温浴施設でございますが、一番の意見は、これは出来上がってからということになるかと思いますが、物販施設やマンション、住民が住むマンションという意見がございました。一番の意見に関しましては、一体的な整備という意見につながっていると考えています。また、リゾート開発を手がけている建設会社等に話を聞いてみればどうかというご意見もございました。以上が海王町の関係でいただいたご意見でございます。

委員長：どうもありがとうございました。海王町の集客機能に関する意見をまとめますと、このように一体型の建物ということで、そういうところにテナント的に入る、あるいは上の階のほうが住宅になる可能性がある、いずれにしてもこのような形でやる人が出てくるのか、やれるような状態にサポートしながら民間の力が中心になるのですが、こういった形で誘いをしていくことはいんじゃないかと。皆さんいかがでしょうか。まず、海王町の問題で30分くらい意見交換をお願いしたいと思います。

委員：私はこういうお金のかかる話は、なかなか難しいと思う。だめと言っているのではなくて。例えば、日本で景観がいいところ、しまなみ海道なんかは生口島には平山郁夫美術館ができたんですね。今、あのしまなみ海道の橋を渡る人たちの目的は、あの美術館に行く人が多いんです。いい景観でいい雰囲気であれば、日本中からすごい施設が来る。たまたま生口島は平山郁夫が生まれたところだから施設が出来たんですが。もう一つ言えば、北海道でいえば小樽がありますが、小樽には石原裕次郎の記念館やガラス館があったりするわけですが、必ずしも地元の企業ではない。もっとすごいのは、島根の宍道湖に世界のティファニーが美術館を造った。だから、私はこういった発想は確かにいいんですが、こういうすごい橋があって立山があって、このすばらしい景観があれば、あまり小さいことを考えなくてもいいと思っている。すごい企業が見ている。だから私たちはそれをどう受けるかを考えていく必要がある。逆にこれはだめだと言っているのではないが、こういうことも必要ですが、そのために私たちはどう仕掛けていかなければならないのかということを考えなければならぬという思いがします。

今、日本で見ていたらすごいと言われるところは、地元資本では決してない。近くで言えば、先日訪れた高山でも、昼食に入った店は、高山の人ではなかった。だから、地元資本に頼ってはだめだということ。ビジネスチャンスがあれば、やる気とお金を持った人がくるという思いで見えています。だから、受け皿をしっかりとしなければならぬ。慌ててはいけない。まさに、こんな橋が

できたらちょっとほかにはないよと、内川があつて大橋がある、これだけの資産を活かすのは私たちではないという思いです。

委員長：それでは、具体的にここに挙がっているもの以外に必要なものがあると。

委員：これはこれでいいと思っている。

委員長：先ほど美術館だとかいう話も出ましたが。

委員：それは、このあともう1回発言しようと思っていたんですが、小さなことをたくさんしなければならぬ。しなければならぬのだが、役所に資金を頼っていてはだめな時代だ。この前から言っているんですが、内川にプレジャーボートが相当いる。マリーナでは年間最低20万円かかる。私はプレジャーボートから協力金をとる、年間10万円くらい取ればいいと思う。そういうシステムを作って、それをNPOで受けて、そして、そのお金をここにも書いてある案内看板とか、町おこしの潤滑油みたいところに使う。これを県関係にも提言したことがあり、県の課長は、確かに税金で取る必要があるといていたが、私たちは地元還元する形でNPOが担当する、例えば200隻いて1隻から10万円とったら2千万円になる、それくらいのお金がないいろいろなことは展開できないと思う。そういうことをいち早くやるべきだと思う。

委員長：それは、また後の内川のほうで。委員の一番初めの提案は否定ではないので、平行してもっといろいろなことがあるんじゃないかという意見でした。それでは、皆さんの意見をまとめたものに対して真正面から意見をお願いしたいと思います。これは、市や県といった行政がやるというものではありません。こういうものをやろうというところが出てくればいいということで。これが合うように思ったのは、私自身、日本全体が90年代前後の大規模レジャー施設を海の近くにぼんぼん造って、今ほとんどが悲惨な状態になっています。うまくいっているのは、消費地に近い東京辺りで、あとはちょっと離れたところで1~2の施設がもっている。そのことで自治体が悲惨な状態になっている。つまり、水道料金も税金もどんどん上げないと返済できない実態を目の当たりにしているものですから、二の舞はだめだろう。新湊で一体的施設で比較的、場所がよければ案外いけるのかなと、先日事務局に行って聞いたら、あゆの風センターというのがありますね、立町に。それともう一つは庄西町にある、海

の見えるところで建設省の補助で作った住宅地があります。この二つはかなりいっぱい、若者に人気がある。住みたいという。しかも、海王町の住宅も同じようなことを聞いたものですから、これは地元でも若い人の需要にも合うだろうし、お客さん相手にもいけるのかなというかなり地道なものの提案なんです。

委員：海王町の集客機能ということで書いてありますが、この体験型宿泊施設というものと温浴施設はやはり一体化する必要性があるのかなという感じがします。それと、先ほど部長から説明のありました平成15年度につくった新漁村コミュニティ基盤整備事業、この報告書では施設の図面から予算まで全部でていた、確か農水省の予算ということで。せつかくそういったものがあるんですから、確か漁協が中心となってやっていたと記憶しているのですが。もう一つは海鮮館ですが、新湊は魚のまちですから、いわゆるフィッシャーマンズワープ、これも計画が出ているはずなんです。ですから、計画が出ているものをやれるかやれないか、その辺をキャッチボールして、やれるということであれば、行政をはじめいろいろな人も入って進める形が求められるのではないかと。ただ、どうしようかといっている、前に進まない。もちろん、財政的な意見もあると思います。そういう、しっかりやれるかやれないかという確信の上でゴーサインが出て進めていけば、より早く実現するのではないかと私は思います。

委員：私はこういう施設はいいんだけど、役所でこういう施設を造ったらだめだと思う。つい先日、古洞の森のところで14億円もかけて建設したのだが、運営をしてくれる人もいないというのが新聞に載っていた。おそらく、どれだけかけてつくっても、絶対しっぺ返しがかかる。どちらかといえば、お金をかけすぎてしまう。14億円かけて実際問題運営をだれも引き受けてくれない、そういうものを役所で莫大なお金をかけてつくる時代ではないという思いでいる。逆に、もっとソフトな面でいかなければならない。具体的に言えば、新湊に海王という温泉が一つある。あの温泉を造っただけで入湯税がかかる。これを調べてみたら、温泉地で入湯税を取っているところは一つもない。目的税で全部ただにしている。結局取ればそこに返さなくてはいけない。だから、逆に言えばそういうところから整備しないと。加賀温泉なんかは入湯税を1円も取っていない。宇奈月温泉で取っていない。役所はどうあるべきかということ逆を考えておく必要がある。来ていただくというインセンティブを与えられるようなものが必要だ。

委員：体験型宿泊施設と温浴施設は先導的事業に位置付けられているんです。決して役所で全部やれということではないので、農水省の予算も報告書に書いてあったと思いますし。報告書に基づいてやればいいのではないかと。

委員：こういう施設にはどれくらいの補助がつくのか。逆にそういったものをPRしていけば。

事務局：体験型というのは漁業体験を意味するもので、そういう方が利用する施設を作るのであれば補助が出るということです。一般の方が泊まるということになれば対象外です。

委員：そうすると、二上青少年の家のように役所の基準で制限していたらだめになってしまう。現実的にやわらかい方法はないのか。

委員：橋が1年後2年後に開通するということが分かれば、だいぶ違ってくると思う。それと、もう一つは東海北陸道が全線開通したら大分違ってくると思う。その二つのことで、今話しているのがちょうどなのかと思う。

委員：この前も話をしていたように、富山商船の練習船をうまく活用させていただければ。かなり前には使わせていただいていたと聞いているが、その後、役所とのパイプが切れたと聞いている。そうした船も利用した分はお金を払うということで利用させていただければと思う。若潮丸というすごい船がいるんだから。民間ベースで考えれば、海王丸でも結婚式をしたり、宿泊をしたりしてもいいと思う。役所が管理しているからつい考えが固くなって、役所は一步下がって民間に委託すればどうか。そしたら、お金を出すのも変わってくる。県も市もお金がかかっているんだから。ちょっと一步下がってNPOにでも運営させてみればどうか。いいすぎかもしれないが。

委員長：この一体型というのは、建物を建設する主体、それからその主体がどうやってお金を集めるのか、それと建物が出来たとき、その中の利用をどのようにしていくのか、いろいろなものが絡んでくると思います。私は、今の公共事業のやり方は、結局、土台に運営も含めて、民間がどれだけ興味をそそるかという問題に関わっているんですが、ものすごく儲けがないと来ないという調査をしたら、おそらく何もこないと思うんです。だから、誘い水ですが、地

元の人がかうだったら来たいよとか、利用したいとか、自分たちがお金を出してもかういふ物が造りたいんだというのが、一つのポイントだと思つています。特にお風呂なんかは、富山県の人はお風呂好きだと思ふんです。そしたら、海王丸を眺めながら、そして橋を眺めながら、ゴルフの会員権と同じように、例えば1人100万円で募集するとか、そしたら会員権として、富山県内から1000人を集めると10億円集まるわけですよ。そういうのを土台にしながらいけるかどうかということ、あるいは、オープンカフェにしても、現在、海王丸を見ながらコーヒーを飲むというのは、飲みに来ると思ひますが、行くけど、自分でチケットを買つて、セルフサービスですというのは、優雅な雰囲気がない、そういうものではないだろうと思ふ。やはり優雅な気持ちになれるものがあればという思ひが出てくる。そういうものであれば、少々高くても行きたいなと思ふ。ただ、目の前の儲けだけでやると、人も来ないだろうし、地元の人もあるじゃだめだと思ふ。だから、この一体型については、だれかが造ってくれるのではなくて、いうならば、そういうことを提案して、それに乗ってくる人がいれば、そこを中心に県民から一定のお金が集まればやると、それに対して国なり県なり線が細くてもサポートする資金をできる限り援助するという図式をイメージしている。だから、お金が集まらなければ、基本的に出来ない、だから、これをやろうというものが次々と出てきてもいいと思ひます。

今まで、役所がやるというと、2~3年で人が来ないのが分かつていても、上からお金が出るので、造っちゃえということで、明らかに無駄遣いということになる。これからは、そういうお金はないだろうし、要するに新湊の近くに住んでいる人でもいいんですが、我々自身がそれだったらお金を出してもいいと、そして多少メリットがあれば。会員だったら、お風呂に行ったら特別室でコーヒーが出るだとかいったものがあれば魅力的です。私は、どうしても海の近くの景観がこのように整つたものは、ものすごく価値があると思つているんです。それは、どれだけお金を出しても一企業ができることではないし、あの場をお風呂のようなために提供するだけでも、公共的なさきげだと思ふんです。かういふものをやってみる集団を募集するという意味での一体型施設の考えなんです。これはだれか他所の人が造る、役所が造るという意味ではないんです。県内で投資するものがないければ、環日本海のウラジオストックや中国、韓国だとか、お金を持っている人はいますから、そこに投資をさせようとか、いろいろあると思ふんですよ、いい場所にあるから。何か取っ掛かりが出てればと思ふんですがね。

委員 : 高山の場合は、お金をもうけに来た人ではないんです、まことにほれ

たとか、趣味を活かしながら喫茶店をやっているとか、そういう人たちのほうが多いような気がする。金儲けではない。町が好きで、人にほれたとかまちそのものにほれたとか、いろいろなのがあるけれども、そういうように人が入ってくるものが必要。それが、地元の人たちも活性化の中に巻き込まれていく。現実はそのだと思う。高山は年間300万人来る。普通の土曜日・日曜日でもいっぱいです。予想されるのは、東海北陸自動車道が全線開通すれば、もっと人が来るだろうということ。ビジネスチャンスはもっとあるということが見えている。そういうところを見据えなければならぬと思う。だから、きれいなまちをつくるとか、基本的なことをどこかでやらないと。ここまで来たら、慌てることはない。

委員長　：ほかに何かご意見ありませんか。

委員　：現在は、海王丸パークの場所で、こういった施設がやれますよというPRが始まっているのですか。

事務局　：日本海ミュージアム構想の中でそういう位置付けがなされてきました。質問したいのですが、今現在、日本海ミュージアム構想でそれなりの位置付けになっているのですが、例えば民間でという発想からいくと、その場所で実際民間ができるのですか。

県アドバイザー　：日本海ミュージアム構想ですが、構想そのものはまだ生きております。現在、駐車場になっている用地で交流拠点施設を造ろうということで、それは官がやるのか民がやるのか分からない中で、そこでだれがやるのかということは頓挫している状況です。土地をどう使っていくかということは、今こうして話し合われている状況です。使いたいという話であれば、どんなやり方でもある。今、何かの構想にとらわれるとか、官がやらなければならないとか民がやらなければならないとかという話ではないと思う。具体的な構想が出てくれば、やりようはいくらでもあると思います。

委員　：具体的に民間が手を挙げて、いろいろ提案なり投資もしますというような形になったときに、それは受け入れる保証はあるのか。

県アドバイザー　：ここは、もともと民間でやるということで、国から土地を買っている。ほかのところは国有地のまま利用させてもらっている。

委員：やはり、これからの港の姿を対外的に PR して、投資効果を認められるよう、手を挙げていただけるように PR していく必要があると思う。

事務局：個人的に知った人が、海王丸パークの中で、例えば移動式、屋台みたいなもので商売をしようとしても規制があつてなかなか進出できないという話を聞く。実際に大げさなものでなくても出店できない、縛りがあるようなことを聞くわけですが、そういったものが取り払われれば、その部分から切り込んでいけるのかなと思うのですが。

委員：福岡にも屋台があるが、結局みっともないからやめてくれと県の保健衛生サイドから言われている。みんなあつたらいいと思うんだけど、海外から人が来たらみっともないと、だから、今やるとしたら難しいのではないか。本当にやるんだったら、建物を建ててほしいと。

委員長：体験型で館先生何かご意見は。

委員：先ほど事務局から説明があつたんですが、漁業の体験じゃないと助成が出ないということで、それを知らずに、体験型施設に商船の練習船を使えないかという提案をしたわけですが、我々の学校も地域に開かれた学校を目指しており、ただし、かかる費用については一般利用者から取るということで、そういった意味で、以前も新湊で学会をやったことがあるんですが、宿泊するところも少ない。

今日、海事新聞を読んできましたら、資料として2種類用意してきたわけですが、8月23日の新聞に清水港の例が出ておりました。「港はまちの誇りである。」ということで、ここでは、小学校の総合学習、教育の場で港を利用しているということなんですが、私はそうではなくて、イメージしているのは、今、橋も橋脚の工事が進み、ある程度イメージができるようになっている。完成すると、日本海で斜張橋として一番長い橋になるわけですね。この工事の期間も含めて、例えば地元の方にもこういったことを知っていただけないか、例えば、市政バス、県政バスの中で今造られている新湊大橋、それと富山新港、漁業体験なども含めてですね、大人から子供まで体験できるような学習の場が必要なのではないか。これはなぜかといいますと、あまり知られていないんですね。

今日、参考に事務局からお配りいただきました、先日の「あゆの港シンポジウム」に25名の学生が聴講させていただきました。その中で、新湊とまちづ

くりに着目して聞きなさいよということで、後でメモでいいから出しなさいということで、これが出てきたのですが、学生たちは新湊のことをあまり知らない。橋脚が出来上がってきても、私たちは関心があるから出来てきたと思うんで、全く関心のない人はあれが何なのかも分からないわけです。ですから、大人から子供まで、建設中の現場視察を県政バスあるいは市政バスで仕掛けていかないと、まずはそういう機会を設けて定着させていかないと。それから、先導的な事業を発信していくべきです。あくまで、この場に参加するということは、学校という立場、それと地元ということで見ておきますと、どうもその辺りが下手なのかなという気がします。

委員長：そういう意味では、いろんな施設が管理が違っていてもつたいないところがたくさんある中で、それをコーディネートしていく、そういう役割もこの体験型を海王町の部分に設けるには、当然入ってくる。そこで宿泊させる施設を造るというよりも、既存の商船高専や海洋高校の船を使うとか、民宿との関係、あるいは情報をまとめるだとか、普段の教育の中で提供していくとか、既に、国土交通省のほうでは施設を造って宣伝は個々にしているんですが、全体を有機的にやっていくというのがにぎわいの核になりそうな気がします。一応、今話をしている部分は、体験型施設や環日本海との関係でレストランだとか、にぎわいのいろいろな施設、場所もほぼこんなところにとというのが書いてあります。ですから、先ほど県からのご説明にもありましたように、動き次第で全くだめになるようなことは書いてないと思います。ですから、決して矛盾することではないと思います。海王町については、イメージ作りがなかなかうまくいかないんですが、それほど止めたほうがいいという意見もありませんから、一応皆さんからの意見をまとめてあるのが資料1である、これをより具体的にやっていくものとして、PR だとかをして平行して考えていこうということで、とりあえず、この件はまとめたいと思います。

国アドバイザー：今回4回目ではじめて参加させていただき、ありがとうございます。これまでの流れから少し違う話をするかもしれませんが、ご容赦いただいて、アドバイザーという立場と私の個人的に思うことがありまして、お話しさせていただきます。体験型宿泊施設についてのアイデアなんです。路面電車万葉線の延伸という構想がありますが、例えば、海王丸パークまで万葉線を延伸させて駅を作って、駅と一体的な物販施設や食事の施設、そういうのを造るのを考えるのもいいのではないかと思います。最近、新聞で、地鉄の駅と図書館が一緒になるというのも出ていましたし、今日の新聞にも路面電車

が電池で走れるというのも出ていましたし、もう少し安くできるかもしれないですし、そういうアイデアもあると思います。

それと、レストランの部分でファミリーレストランの企業に聞いてみればという意見がありましたが、富山には、おいしい魚がある、新湊にはおいしいお寿司がありますが、私も富山に来た人に、富山のお魚はおいしいよと言うんですが、どこで食べたらいいのと言われるんですね。例えば、富山の海王丸パークに来れば、おいしいきときとの富山の魚が食べられるとか、おいしいお寿司が食べられるとか、そういうのが集客効果があるのではないかと思います。どこで食べられるのかはつきりすることと、ここでしか食べられないというものを出す施設のほうがいいのではと思います。

それから、この会議は行政が中心になって立ち上げられて、とてもすばらしい委員会だと思うんですが、やはりこれから構想がまとまって実施するということになれば、実際にやっていく、運営していく実行部隊が必要ではないかと思うんです。そういう実行部隊には、各地区での NPO 活動ですとか、市民団体であるとか、そういう組織が必要ではないかと思っております。先ほどの話や、このあとまちづくり交付金の話も出てくるようですが、港湾のほうでは、来年度から「みなと振興交付金」という新しい制度を創るために要求しております。できればこれにもお手伝いできるのではと思っております。今、港整備交付金というのがあるのですが、地方港湾、富山県では魚津港しか対象にならなかったものですから、今度、新しいみなと振興交付金があれば、このまちづくりにも活用できるかもしれませんので、今後相談しながらいいプランができればお手伝いしていきたいと考えています。

委員長：私がまとめるようなことをアドバイザーの方に言っていただきました。ここで出たいろいろなものを具体的にどうしていくかということに触れていただきましたが、既に、このまちの中でやっているところ、喫茶店なんかもそうだろうと思いますし、NPO でやっているところもそうだろうし、今の海王町のにぎわいで出たイメージですね、そういったものをこの委員も場合によっては入ってですね、一緒にですね、より具体的にするにはどうしたらいいかということで引っ張っていく、そういうことにしたいと思います。そのためには、委員のほうからも、こんな人がいるよということで、また事務局のほうも、こんな人が動いているよということをお教えいただきたいですね。そして、ここで出た案を具体化できるのかどうか、そういうようにしていきたいと思っております。

今、にぎわいというところで、いくつかのものの一體的整備について議論を

していただきました。ここで議論した中で、環日本海の問題、また、お寿司の問題もありました。ちょっと、つめてみると、新湊の寿司はどこが違うのかということも十分つめられていないと思うんですね。地域おこしのところでは、よく自分のところの昔からあるブランド、何が違うのかということが聞かれないと言えないことが多い。それはやはり、寿司研究会ですとか寿司組合が外へ売り出すために検討しないとまずいと思うんです。例えば、大連なんかはやはり海産物に自信があるんですね。自分たちの大連の海産物の料理はこうだということで部分的にやっているんですが、おそらくそういうところと提携したら、大連の海産物、環日本海の料理を日本人好みに合うように工夫する研究会もできるかもしれません。前に、環日本海のレストランという議論があったことをご紹介しておきます。ちょっと、中途半端ですが、海王町のにぎわいの一つのものとして、皆さんから出たものとして、そういうようにまとめたことを意見交換しました。これを基にして一歩進めていくような形で次に入れるかなと思っております。それでは、海王町のにぎわいについては、次々に出していきますので、とりあえずは今日はこれで。

次に、海竜町のほうです。海竜町についても、これは近未来のことを考えながら、ここの有効な発展をどうしたらいいのかということでもあります。これについてもですね、意見をいろいろといただいております。それを事務局から説明をお願いします。

事務局：それでは、海竜町の先導的事業に位置付けられております研究機関との連携強化ということで、クリーンエネルギー研究・活用施設、リサイクル研究施設、海洋水産技術研究・活用施設についてのご提案についてご説明いたします。

クリーンエネルギー研究・活用施設についてですが、1つ目の意見として、電力会社、北陸電力を想定されていると思いますが、そちらへの相談が必要ではないかというご意見、そして、クリーンエネルギー住宅というもので一つの町を造って、そこに住むモニターの募集をすればどうかというご意見、それと、クリーンエネルギーを実用化している自治体を研究すればどうかというご意見をいただきました。

次に、リサイクル研究施設でございますが、1つ目のご意見として、関係機関や施設の視察、そういったリサイクルの関係機関の視察それとそういった企業への相談が必要ではないかというご意見、2つ目に、今後、産学官、木材組合と県立大学で実行委員会をスタート、これは後ほどお聞きしたいと思っているんですが、スタートする予定なのかスタートすべきではないかという意見な

のか、お聞かせ願えればと思います。3つ目にリサイクルポートとして、新潟県の姫川港が大変有名でございますが、そちらを参考にして考えればどうかというご意見をいただきました。

最後に海洋水産技術研究・活用施設ですが、こちら1つ目の意見として、水商連や水産物加工業、そして近畿大学、その三つで連携しなければいけないというご意見、もちろん相談も必要だというご意見、2つ目は、既に深層水を利用しているアサヒビールや五州薬品に一度お話を聞けばどうかというご意見をいただきました。先ほども申しましたが、産学官、木材組合と県立大学で実行委員会をとという話や、深層水の活用については、近畿大学で、中層水の活用だったと思うんですが、そういったものを利用されています。既に、近いものを利用されている研究施設が海竜町にございますので、ご協力を求めるのも大切なのではないかと考えておりますが、委員の皆様から意見をお伺いできればと考えております。

委員長：ありがとうございました。この点で今説明された以外にいろいろな意見が出されておりますが、私と事務局で相談して、二つの点で今日は意見交換をさせていただきたいと思っております。1つは、「近未来の環境」との関係で、この前も出てきた木材・バークの関係がございました。それで、やはり近未来を考えると、たった一つだけで環境の問題に取り組むことができないということで、大学・高専、民間の業者、それから官といった、具体的に研究会といたしましうか検討会をスタートしたらどうかという部分、まずこれについて意見交換をして、もし、こちらも応援できることがあればということでの意見交換ができればと思っております。この辺り、委員のほうからお願いします。

委員：今お配りしている資料は、新湊地区木材協同組合と県立大学との資料で、まず困っていることがないかという話から始まったものです。現在、ロシアから丸太で富山新港に入っている中で、バーク・樹皮の処理が非常に大変になってきているということで、以前でしたら、バーク堆肥というものに製品化して、例えば公共工事でのり面に吹き付けて使ったりして需要はあったのですが、公共工事が大幅に減ったものですから、バーク堆肥を作っても出口がない。港のほうで少しずつ処理はしていますが、最近溜まってきています。このことから、それをどうすべきかという発想で、バイオマス発電、もちろんお金もそうなんです、将来的に原木で入り続けるのかという問題も片方にありまして、実際にはロシアの現地で半成品・完成品化して富山新港に入り始めている状態で、樹皮だけに限らず、こういったバイオマスを考えるのではなく、資源を継

続的に取り入れるにはどうすればよいかという研究といたしましうか、勉強会・検討委員会を、木材組合の役員がメンバーになって立ち上げたところでありまう。

ここには、県立大学の提案ということて、業務の流れも書いてありますが、そういったバイオマスで電気を生産して、例えばこれからできる新湊大橋の電力に使えたら対外的にも PR になるのではないかと、あるいは北陸電力に販売という形もできるかなということも思っています。今、はじまったばかりて。先ほどもいったように、今、全国各地でバイオマス発電の施設が増えてきているということて、その中に入れるもの、今まで邪魔だったものてすね、取り合いになってきている、競争がもう始まりそうだということもありまして、その辺のバランスが今後どうなっていくのかなということも一つあります。そういった現状てす。

委員長 : もう始まったんてすね。もう検討は動き始めているという理解てよろしいんてすね。

委員 : はい。県立大学の教授からは、お金は結構かかりますということをお聞きしています。だれが出すんてすかということて。

委員 : 現実問題て、この前高岡衛生公社が作ったのは、パーク堆肥を作って、それを中越パルプが燃やすというものだった。廃材を集めてきて、燃やす施設を作りましたよ。

委員 : 現在、ここにある樹皮はどうしているかということて、わざわざトラックで運んでいるんてす。新潟県の明星セメントまで。そちらて処理してもらっている。

委員 : これは、かなり補助金もあるみたいだ。トータルて 12・3億だったか。

委員 : ただ、先ほどもいいましたが、日本中にこうした施設ができているので、出すほうもお金がなくなってくる。

委員 : 本当に出てくる補助金の取り合いだ。先に押さえたほうて勝ちだ。バイオマスは、CO2の排出がないので補助金が出る。

委員長：このまちづくりとの関係では、どういったことを期待できるのか。

委員：ですから、海竜町が近未来を考えた高質空間ということであれば、このクリーンエネルギー住宅にという意見を無責任に書いたのですが、そういった一歩先へ行ったまちをイメージさせていかななくてはいけない。

委員：リサイクルポートの提案は。

委員：私が提案したわけですが、姫川港はセメントです。前に調査したのですが、リサイクルポートの指定を受けて、セメントをつくる過程でいるものを引き取って、いらなくなったものを出すということでした。そういったようなことができないのかと。その背景には、樹皮とかですね、今お聞きしたところ新潟のセメント工場で処理されているということであれば、内航船で持っていくとか。以前は、バークの処理は燃やしていたんですが、今はできないですよ。非常に厄介なものです。

半年前に伏木富山港湾事務所の佐川課長が立ち上げて、第一イン新湊でした企業懇談会でアイ・テックが言っていたのは、新港に出てきたのはCO₂の削減で、鋼材を運ぶのに以前はトラックを使っていたが、やはり、環境を考えながら内航船で運ぶということでここに来たという経緯がありますので。また、そういうところで富山新港がクリーンであるということに着目すれば、また使えるのではないかと。

委員長：これが軌道に乗ると、国土交通省も港のリサイクルポートの指定をしてくれる可能性があるが、量がある程度多くないと物流のコストがかかります。姫川港でいうと、東北の方の木材のかすを運んで、セメントと混ぜながら新しいものを作っている。ということで、ここでのものも軌道に乗ってくると静脈物流の位置付けに入ってくるのではないのでしょうか。今、具体的に進んでいるものも、近未来を考えた高質空間のところであるので、とりあえずここでのまちづくりのため試験的にいろいろ使うところに向かっていくのですが、これなんかは、安全が確かめられれば、例えば住宅会社に指定管理者として販売を委託する時、官庁の条件、指定管理者の条件として、このバークをもとにした製品を使ってみるだとか、試みることはできると思います。

以前に、いろいろ言われていたのは、神通川西部の浄化センターの中ででる汚泥ですが、汚泥をまちづくりにどう使うかということで、水分を吸うような

材の形で敷き詰めてまちで使ってみるとか、コストとの関係でどうなるのか、なかなか進まない面もあるのですが。ある意味で、港の近未来を考えた実験都市みたいな方向で、この場でやっていいものがあれば、そういうように波及させていくことも可能ではないかと思います。

事務局 : 質問よろしいでしょうか。海竜町で第二次の住宅開発を準備しているものですから。新エネルギーの供給はそんなに早くないですね。

委員 : 各企業はリサイクルに真剣だ。ここでいえば、JFE マテリアルが、日本中の油精製の時に出る希少金属を採取している。日本で唯一ここだけ。そういうのは、かなり先行している。だから、みんな大変なことをしている。リサイクルはみんな真剣だ。

委員長 : 早く結果が出ればいいと思いますね。

委員 : リサイクルは早いもの勝ちだ。

委員長 : ただ、木材なんかも、この間ロシアのほうへ行って聞き取りをやったんだが、北朝鮮の安い労働力を使って伐採して、途中で汚いのをぼんぼん捨てていって、中国経由で製品にして日本に出すんだというのを聞いたんです。中古車を山へ捨てるのも極東地区で問題になってきているから、いずれ汚いものを海外に捨ててくるという発想はすぐに限界になる可能性があるんで、こういうところでのソフトの研究がこちらでは必要。その結果は、向こうへの価値ある技術の輸出になるのもそんなに遠くないと思うんですけどね。そういう意味では、海竜町のところに、環日本海地域も含めた中古自動車の廃棄の部分も取り込めば、何か研究機関というのは重要です。既に、富山県が出資した国連の環日本海の環境センターは動いているわけです。それは、日本でやっている唯一のものが富山県に存在しているということですからね。私は、このような角度でこの地が土台となって企業の研究施設が乗り出していければいいのかなと思っています。

委員 : やはりバイオマスの問題は、原料がなくなっていくということです。ロシアでは、ここ2~3年で原木で出すのは激減します。油とかガスと同じようにですね、あれも資源の一つですから、自分たちで付加価値をつけよう。だから、木材加工業も流通業になっていく流れになるかもしれない。

委員長：では、この件は既に進んでいるということで、また逐次状況を教えていただいて、この戦略会議で協力できる部分は協力していくと。また、この環境との関係のもので出てきたらお願いします。海竜町でもう一つ近畿大学の研究施設が来て、長い実績があるわけです。漁協との関係においてもです。それで、やはり既に実績のあるところを更に海竜町で大きな動きをしてもらいたいということで、希望から出てくるのが近畿大学の水産研究施設と堀岡漁協との関係です。この辺りを、視察に行ったりしてどういった状況かを把握することも必要ではないかと思えます。あまり見てないのですが、従業員は増えているのか、学生がたくさん来て地元にお金を落としてくれているのか、心配になるんですね。近畿大学にしても損得の点はかなり徹底しているとお聞きしているものですから。企業以上の観点もあるとお聞きしているのです。やはり、ここでの養殖技術というのを土台にして、あそこに水産学部を設置してもらって、学部の学生や院生などもそこに寮でも作ってもらって、盛んに研究してもらおうという要望はどんどんしたほうがいいと思うんですね。あるいは、中層水を利用しているということですが、深層水まで幅を広げていただいてその深層水は、風呂を作るときは深層水風呂につながるようなことも、どんどん地域に奉仕してもらおうということもどうだろう。そのためには、海竜町で近畿大学の見学はどうでしょうか。ここに来ていただいてお話をお伺いしてもいいと思えます。これについて、水産との関係での皆さんの意見交換をお願いします。

委員：ひらめについて、いろいろストレートで扱わせてもらえないという問題があるのでは。

部長：業界の中ではあるみたいですが。

委員：せっかくここにいるんだから、ひらめの昆布締めみたいものが新湊のブランドになるのに、なんでほっておくのかなと。なんかあるみたいだ。そういう点では、ビジネスにつなげないとだめだと私は思う。商売が下手というか。もう一つ言えば、海老江の牡蠣なんかブランドだ。ここで獲って、ほかで卸すとかね。ぜんぜん話が違う。地産地消になっていない。ビジネスが下手だ。ただ、人が多く来たら、日ごろ私たちが食べているものが高くなる。それも覚悟しなければならない。だけでもブランドで売れる、売れるということはお金が地域に入ってくるんだからいいことだ。

委員長 : これ、どうですか。一度時期を見て見学をお願いして、意見交換をしてまちづくり委員会として、そういうほうにも関心を持っていただくように働きかけるようにするとともに、私たち自身も知る必要がある。

委員 : 今、ここにいる委員の中で、過去近畿大学の研究所に行かれたことのある方は何人いるのか調べてみて、多分あまり行かれていないんじゃないかと思います。

部長 : 進出していただいて、ずいぶん年月がたっておりますが、人的配置は少し縮小されております。肩書きで仕事をするわけではないのですが、近畿大学という組織の中で、役職的に以前はかなり上だった人が、下がってきているという状況はあります。それは、安定してきたのでそのようにされたという捉え方もできるわけです。行政として補助しているので、そこら辺の対応が必要かなという反省はしております。ただ、一生懸命やっていたということは事実なので、近畿大学の組織の問題ではなくて、地元の漁協との連携ということ、それにお互い存在意識をもっていただかないと、これより先は明るい材料はないのかなという気がします。

委員 : せっかく誘致されたんですから、地元で根付いていないと意味があまりない。それと、今主流はヒラメですか。私が見学に行ったときは、その後新しい商品というか「キンダイ」というのを養殖されていた。ですから、かなり日経っていますので、新しい商品ができているのかもしれませんが。この流通ルートを知る必要があるのではないかと。ですから、我々で一度乗り込んで、どういう流通ルートがあるのか、どういう商品があるのかということ調べておく必要があると思います。

委員長 : 一度そういう見学会というか意見交換というか、まちづくりという観点で、これは近畿大学に限ったことではなくて、富山商船や背後地の大企業もありますので、まちづくりに誘い込んで、まちづくりとしてご協力願うということも大切かと思います。そういったことで、また提案させていただきます。それでは、海竜町のほうは、とりあえず二つのことを話合いました。残りはまた次回にしたいと思っております。

次に、今度は海王町と海竜町を起爆剤にしながら、旧市街地にどう結び付けていくかということも大まかには書いてあります。そういった方面で、内川というのは財産であります。それで、この前もいろいろ出ました。内川沿いのと

ころで、まちづくり交付金事業でできるものがあるのではないかということでご意見も出ました。それでは、事務局からご説明をお願いします。

事務局：それでは、資料2で、まちづくり交付金事業について、この戦略会議の提案も受けておりますし、それからTMOからの要望もございまして、交付金事業の変更を内部で検討しております。その案をこの場でぜひご議論いただいて、きちんとしたものにしていきたいと思っております。

まず、今の計画は、前回も申し上げましたが、平成17年度から20年度までの4ヵ年の計画になっており、範囲は、資料中赤で囲んだ部分を対象としております。目標としては海王丸パークへの観光客85万人、各種イベント入込客数24万人といったものを主要の数値としておるところであります。この当初計画のほうに、藤見橋、中新橋、茂八橋、桜橋、遊歩道等ございます。これを少し変えていこうかということで、桜橋と茂八橋の二つにつきまして、若干計画を延ばさせていただこうかなと、ぜひ21年以降も引き続きこの事業はやっていきたいと考えておりますが、20年度までのスパンの中では、もし変更させてもらえるのであればと思っております。また、藤見橋については、設計についても発注済みで、既に取り掛かっております。更に中新橋については、0.5t以下しか通行できないという危険な橋なんです。結構車が通っております。私どもとしては、まだ皆さんのご了解は得ておりませんが、ぜひ歩行者専用の橋にして、名物になるような橋にしたいなという思いを持っております。隣にはステンドグラスのかぐら橋があり、もともと橋がなかったわけで、ここの橋を造ったときに中新橋を取り外すことにしていたわけです。今も残っているわけですが、私どもとしては歩行者専用の橋にしたいと考えております。

また、ポケットパークや二の丸橋についても、現在やってございまして、今年度中に完成の予定です。変更計画では2つの橋を少し延期させていただこうかなと、そして、海王丸パークの中の情報発信板については、オーロラビジョンを利用して新漁村コミュニティ基盤整備事業の場所で情報発信板が考えられておりました。そういう事業が、頓挫しておるといってもありますし、前回も申し上げておりましたとおり、費用対効果という関係で、どうだということもありまして、とりあえずは、止めさせてもらおうと。案内表示板ということで、海王丸パークと内川を有機的に結ぶような案内板に変更したらどうだということで、このように考えているわけです。若干整備が残っている遊歩道を引き続きやっていく、照明・植栽については、照明だけは18年度、19年度の事業として進めたいと思っております。また、川の駅がTMOまたこの戦略会議でも提案されているので、赤い線で囲んだところが候補地に挙げられております。

山王橋とかぐら橋の間の紺屋町の旧北陸銀行跡地で、500平方メートルよりちょっと大きいぐらいで、そんなに大きな敷地ではないわけですが、市有地として現在ございます。ここを、川の駅にしたらどうだというのが、TMOからの提案でございまして、私どもとしても、そういうふうには検討したらどうかと思っております。宝温泉前遊歩道については、ここは、歩けなくなっておりまして、周遊性が確保できていないところでございます。整備して周遊性を確保したらどうかということで、山王橋から右下部分が遊歩道がない場所となっております。ここを作りたいたいということで、ご意見をいただければと思います。

委員長：どうもありがとうございました。今の部分は現実に進んでいるものですね。それから、もう一つ皆さんから意見をいただいたのは、比較的早急に対応が必要な事業について、まとめたものもでございます。それを事務局から言ってもらって、現在進行中のもの、すぐに対応をしたほうが良いというものということで意見交換していただきたいと思っております。

事務局：それでは、比較的早急な対応が可能な事業として、観光モデルコースの設定、案内板整備、市民参加による観光案内への取組、そして最後に環境教育と一体的な緑化活動や清掃活動について、皆様からいただいたご意見をご説明します。

観光モデルコースの設定でございますが、1つ目が曳山モデルコースの設定、曳山といえば10月1日でまもなく開催されるわけですが、曳山体験コースを観光モデルコースにしてはどうかというご意見です。2つ目に、新湊TMOが作成した観光モデルコースを活用、そして、今後観光協会が策定を予定している観光モデルコースも参考にすれはどうかということで、新湊TMOが策定された観光モデルコースは、今日パンフレットとして皆さんのお手元にお配りしてございます。3つ目が県外モニターによる評価の取り入れということで、県外から来られる方をモニターとして、観光モデルコースを評価していただければどうかというご意見です。最後の意見が、市内学生へのアンケート調査の実施ということで、今から作ることを前提に、どういったところを見たいですかといった調査を行うということです。

次に、案内板の整備についてですが、今ほど、まちづくり交付金事業の変更のご案内もしたところですが、市街地と海王町、海竜町を一体的に結ぶ案内板の整備ということで、1つ目の意見が、ハードの部分はまちづくり交付金事業で対応し、設置箇所については、委員会を作り詳しく調査してはどうかというご意見、そして、先ほどもご説明しましたとおり、県外モニターによる評価

制度を取り入れたらどうかというご意見、3つ目には、設置場所や案内板のデザインも含めて市民から募集してはどうかというご意見です。

次に、観光案内への取組ですが、総合的に、射水市観光協会に登録されています観光ボランティアの活用を言っているんですが、1つ目の意見として、現在の観光ボランティアを増強する。2つ目の意見も同じような意見かと思えます。3つ目の意見としては、その観光ボランティアをテレビ出演などで露出度をアップさせ、それが新湊地区のPRにつながるというご意見、4つ目は、観光ボランティアが利用する観光順路等のマニュアルが必要であろうというご意見、最後のご意見は、まだまだ観光ボランティアを募集すべきだというご意見です。

次に、環境教育と一体的な緑化活動や清掃活動ですが、1つ目が、総合学習の時間を利用した環境活動を教育委員会に相談すべきだというご意見、2つ目が、市民参加による協働清掃活動を推進すべきだというご意見、北陸電力(株)新港火力発電所かと思えますが、環境について出前講座を実施しているので、そういった面も含めて相談してみればどうかということでした。

それで、まとめですが、観光モデルコースについては、新湊TMOが造られたパンフレットに、観光モデルコースを設定してございますので、それを充実させていく方向で協議すべきではないかということでございます。委員の皆さんには、その充実方法や今後観光協会が策定されるとお聞きしている観光モデルコースに、戦略会議の意見をどう反映していくのかということをお話し合ってくださいと思います。次に、案内板の整備についてですが、案内板のデザインについては、射水市内で統一したもの、サインシステムとして必要になってくるかと思えます。先ほどのまちづくり交付金事業がこのまま予定どおり進めば、来年度からでございますので、新湊地区は先進的にして、それが射水市の全体的なサインシステムにつながればいいのかなと思えますが、外国語表記等の問題もございますので、こちら、デザイン等は国際交流協会や商船高専のお力添えが必要かと考えております。そういった、団体を中心に案内板の整備とかデザインを話し合う場を設けていくような話があればいいかと思えますので、ご意見をお願いします。

続きまして、観光案内への取組ですが、射水市観光ボランティアの充実・PRが大半の意見でした。需要を増やす取組、例えば、現在観光ボランティアが何回出ているのかというのは定かではないんですが、それと、その観光ボランティアによるリピーター増に向けた取組が必要ではないかと思えますので、そういった部分で委員の皆さんのご意見をお願いします。

最後に、緑化活動・清掃活動について教育委員会に相談するのはもちろんで

すし、市の環境課との連携も重要かと思います。ただ、緑化活動ということでございますと、第1段階では、未利用地の活用方法が第一の問題であろうかと思しますので、これはF-プロジェクトで実践されていた青年会議所さんから、今後どういった活動があるかとか、F-プロジェクトの反省点等をお聞かせ願えればと思います。以上でございます。

委員長：ありがとうございました。一応、対応が急がれるものはですね、提案としまして、それぞれやっているところがございますので、この戦略会議とよく話し合っ、ここは応援できる部分あるいは希望といった、両方のやっているところと進めていくということが提案です。モデルコースについては、新湊TMOのものをとりあえず充実する方向で、何かする場合は我々も参加をして意見交換をしていく。案内板の整備については、ロシア語、韓国語、中国語、英語、日本語の5ヶ国語になりますから、それを一業者にさせれば大変な額になりますので、富山商船の学生は5ヶ国語はできますから、研究会があれば可能と思います。あるいは新湊高校も韓国語コースがあるんじゃないかと思しますので、具体的に戦略会議と話し合っ、ワーキンググループを作っていく。もちろん、支援はどうするかという話もあります。観光案内についても、既に観光ボランティアがありますので、そちらとまちづくりとの観点で協議をしながら、より充実した方向で。それから、環境教育と言っていますが、港の歴史教育も入ると思うんですね。そういうところで、射水市内の小学校、中学校で何かできないか、これは、私も含めて教育関係者がいますから、いろいろ話し合っ進めていけばいいと思います。それからもう一つ、未利用地を、花いっぱい運動だとか、いろいろな形で、幼稚園や小学生で、割り当てるのはいいかどうか分かりませんが、そこですばらしい状態が作れないか、それは今まで進めてこられている青年会議所の意見を入れながら、未利用地の有効利用を方策でこちらが提案をしていく。一応、これが進めていきたいという提案です。内川の整備も具体的に進んでいますから、その辺りで意見交換をお願いしたいと思います。どこから、切り込んでもかまいません。

委員：それでは、私の方から。宝温泉前の遊歩道ですが、どちらも高いので、階段で上がるのは不便だ。私は、どちらか一方でいいので、浮き桟橋でつなげてほしい。できれば、そういう考えも入れてほしい。

事務局：安全性にも考慮しながら検討したいと思います。

委員長 : 新湊TMOの関係で、商工会議所のほうからご意見ないですか。

委員 : 観光協会で来月モデルコースの視察をやるという話を聞いているんですが。

事務局 : 射水市全体の観光コースを、どのようなモデルコースを作ろうかということになっております。9月22日に視察研修を観光協会役員が行います。

委員長 : そういうのをやられる時、ここの委員にも、もし参加が許されるものがあれば、呼びかけていただければ、またここに反映できると思いますので。この商工会議所の作られた散策コースは、観光協会の作られるものと一緒なんですか。

事務局 : 新湊のコースにつきましては、海王丸パークから観光船に乗りまして、内川めぐりを計画しております。

国アドバイザー : 観光コースを作られる際は、海王丸パークにある私どものみなと交流館もぜひ入れていただきますようお願いします。

委員長 : 案内板についても、非常におもしろいことになるんじゃないかと思います。例えば、国土交通省がお作りになったのに関わっていたんですけども、北陸港湾・空港ビジョンというのが日本語で書いてあるんですが、局長の即決でロシア語、韓国語、中国語、英語のものも作られました。やはり、こうしたのが出揃うとムードが違ってくるんですね。これが、もし新湊で行って見たら全部そうだったということになると、なんかムードが出てくるような感じがするんです。それで、海王丸パークの一体型施設のレストランに行ったら、ロシアのティーが飲めるだとか、韓国の健康茶が飲めるだとか、まちの中にも、こういうようなものが出てくると、なんか雰囲気が出ますね。また、商船の国際流通学科の学生がこれを作って、もし間違っていたら批判も受けて、それがまた勉強にもなる。学生が責任を持って作るということをやれば、親にも見せたいだろうし、一緒に新湊へ来てくれる。案内板の字がいろいろあるということは、文化の違いが出ていておもしろい。ひよつとすると、留学生が来たら、まちが分かるだとかになる。富山県は調べてみると、このところ毎年1000人ずつ外国人が増えているんですね。ここ5、6年間を見ると。相当の増え方で

す。そういうことで、外国人の子供の方は日本語に不自由しないんですが、親がまちの中で困るんです。私が小学校にいたときも、一番困るのが親でした。子供が通訳して親に教えてやるんです。新湊も外国語の表記にすれば、親もわかって町がおもしろいのではないか。

委員：私どもは、オーストラリア、中国（大連）、タイ、韓国（ソウル）、ロシア（ウラジオストク）と語学研修で行ったり来たりしております。日ごろお世話になっている韓国の教授と食事をしようということになって、てんぷらを食いたいということで、1年ほど前、県庁前の天米に行きました。そこで感心したのは、お品書きが韓国語、中国語、ロシア語、スペイン語などで書かれていました。簡単な説明がなされていて、非常に喜ばれるんですね。新湊もそういった取組は必要かなというような気がしました。私も、大連へ行く機会がありますが、ほとんどが中国語ですね。日本人もたくさん行っているんで、日本語のメニューがあれば親切かなと思うんですが。

委員：先ほど、小泉所長がみなと振興交付金の話をされましたが、万葉線の接続の問題、これは万葉線の存続に関わると思っている。できれば、そういうところに入れていただきたい。

国アドバイザー：接続というのはどこですか。

委員：エレベーターの降りてくる部分です。

事務局：今ほどの話で、今みなと振興交付金の話が出たものですから、場合によってはまちづくり交付金も、どういった手法がいいのか、ぜひおっしゃったとおりに橋の完成までに連携したものとして、万葉線を海王丸パークにぜひ引かさせていただきたい、県にもまたご提案・お知恵をお貸しさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

国アドバイザー：万葉線を海王丸パークまで伸ばす、本当は橋をかって海竜町までいけばいいのですが、それは無理だと思うんですが、例えば、フィーダーバスみたいにですね、ライトレールがやっているみたいに、万葉線とコミュニティバスを乗換えをやすくして海竜町に行きやすくするだとか、あるいは、最近実現するか分かりませんが、デュアルモードビークルというのを開発されていて、鉄道だけでも道路も走ることができるという構想ですけれども、万

葉線で来て途中から新湊大橋を渡っていくということや、アクセスについても研究したら面白いかなと思います。今言ったように、自転車歩行車道にどうやってアクセスするのかという問題もあると思います。

委員：本当は、万葉線は海王丸パークを通っていけばいいんだろうけど、それは多くの予算がかかるわけだから、当面はエレベーターのところまでで。私はどちらかといえば、エレベーターのところから海王丸パークまで歩くときに、何もないから遠く感じるので、あそこを並木道、大木でしたら歩いたら苦にならないようにと思う。早急に考えてほしい。

委員：先日、万葉線対策協議会があつて、社長にも万葉線はエレベーターのところまで延伸してほしい。そしてその利用は、国土交通省の上下分離方式にできないかということをお話した。社長はさっそく研究してみたいと言っておられた。

委員：富山のライトレールはお金のかけ方がすごい。私どものところで5年かかることを1年でしてしまう。

委員長：それでは、ちょうど時間です。もうひとつ環境教育で無駄にしたいくないのは、先日海フェスタで配って、私が小泉所長と一緒に関わって作った、漫画仕立ての地元の歴史なんですね。海に焦点を当てたものです。ぜひ、射水市の小学校や中学校の学生には、これを使って説明をしたいようにも思います。今まで、私が海関係の中でやったのは、縦割りの中でのものです。それぞれかなり良いものを作っているんです。だけど、それが横に行かないんですね。もったいないように思う。この戦略会議は、まちづくりはまさに総合ですから、いろいろな各所でやっている声なども含めて、委員が手に入れた情報はここで出していただいて、ここから伝わったり事務局から伝わったり、ぜひ、地域の活性化の方向に持っていければと思っております。最後に、対応可能なものについては具体的に進んでいるところと連携を取って、委員に参加を呼びかけて、委員の所属しているところの学生なり社員なり、参加をして新湊を具体的に見ていくということにしていきたいと思います。最後に、林課長何かございますか。

県アドバイザー：先ほど、みなと振興交付金の紹介がありましたが、その制度の利用について相談していかなければならないと思います。よく気になるの

は、交付金や補助金は、お金を出すときに役所でいろいろ言うとなまらないものができるので、あまり口を出さずに、しっかりとした計画を相談していきたいと思います。

委員長 :最後に今後の日程についてお知らせします。

事務局 :それでは、今後の日程についてご説明いたします。まず、第5回目の戦略会議の前に、みなとまちづくり講演会を今年中に開催したいと思っております。現在、講師の方を人選中でして、思った講師は何人かいらっしゃるのですが、まだお声がけはしておりません。今後、こういう人のお話が聞きたいということであれば、9月10日くらいまでにお聞かせください。必ず実施したいと思っておりますので、よろしく願います。

2点目は、観光パンフレットの作成ということで、みなとまちづくり戦略会議で観光パンフレットを作成するために予算付けを一部行っております。みなとを意識したパンフレットで、なおかつ観光協会や観光担当課のパンフレットとかぶったりしないような、新鮮で斬新なものにしたいと考えております。そういった部分で、館先生にお願いして恐縮ですが、商船の若い学生や新湊高校の学生の意見を取り入れたものを作った段階で、それぞれ委員の皆さんの各団体に持ち帰っていただいて検討いただき、そういったものを吸上げて完成させていきたいと考えておりますので、そちらのほうのご協力もよろしく願います。

3点目は、さきほどお話にあがりました近畿大学水産研究所の視察を行いたいと思います。海竜町の元気の森公園や大橋の工事現場のほうも委員の希望があれば見させていただくということで、時間があればTMOが作られた観光モデルコースも回ってみるようにして、半日ぐらいをめどに設定したいと思っておりますので、そちらへの参加についてもよろしく願います。今後の日程については以上でございます。第5回目の戦略会議については、みなとまちづくり講演会の日程を決めてからご連絡いたします。また、情報提供については、随時、メールや郵便、FAXでお知らせしますので、よろしく願います。

委員長 :どうもありがとうございました。それでは、今日出たことは随時お知らせをして、提案をしていこうと思います。できるだけ、今回のように事前に事務局と私が話し合っ、問題を整理していきたいと思っております。皆さんからも、今度はこんな問題を取り上げてほしいといったものを事務局へ提案をお願いします。今日はこれで終わります。ありがとうございました。これを

もちまして、第4回の戦略会議を閉じたいと思います。

部長　：最後に一言だけよろしいでしょうか。先ほどから、いろいろご意見をお聞かせいただいて感じたことは、やはり十分知らせていないという面をつくづく感じました。これまでも、役所の仕事はいろんなセクションがありますが、自分がみている分野についても十分知らせきっていないなということです。それから、情報の収集ということに対して、もっと貪欲になるといいでしょうか、そういったことも思いました。それで、各委員の皆さんにおかれましても、PR大使ではないんですが、あるいは情報収集大使ということでもありませんが、お忙しいでしょうけどそういったことをご協力いただきたいなと思います。私どももちろん努めますが、やはり情報があるないでずいぶん違いますし、また、こちらが持っているものを知らせる知らせないで、ずいぶん周囲も違ってくると思います。今後ともこの会議が充実しますよう、よろしく願いをしたいと思います。

事務局　：皆様、ご苦勞様でした。